

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500080		
法人名	有限会社 花水木		
事業所名	グループホーム ジョイナス		
所在地	福岡県宮若市本城720番地		
自己評価作成日	平成26年3月15日	評価結果確定日	平成26年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>●食は命の源。食べる元気は生きる元気。毎日楽しんでいただけるように工夫しています。</li> <li>●体調に問題のない日は毎日入浴が基本です。主に午前中はリハビリや散歩など、体を動かすことを中心に行い、午後はレクリエーションのあとに入浴を楽しんでいただいています。</li> <li>●今日できることが明日もできるよう。できないことが、少しずつできるよう。身体機能の活性化に積極的に取り組んでいます。また、季節を体感することで、感性機能が活性化するようなレクリエーションや外出を行っています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームジョイナスは、周囲に医療機関や系列の高齢者アパートなどがあり、自然にも恵まれた環境に立地している。理念に掲げた暮らしの中で日々発見や感動をしようと、ホーム周辺の散歩が日課となり、全員で和紙の淡い桜の花びらを布に貼り付けた見事な桜の木が共有空間の壁に咲きほこり、毛筆で書かれた入居者の作品とともに掲示されている。全職員が「自分が受けた介護、受けたくない介護」について考え、入居者の話を遮らないでじっくりと傾聴する対応で、発語が少なかった入居者が発語が多くなり、ウィットに富んだ会話ができるまでになっている。また、入居者同士の労り合いも多く、入居者の声かけで職員も元気になる、入居者が人生の先輩であると実感しながら、理念の「ともに生きる」が実践されている。開所1年目で、地域同業者協議会や運営推進会議と連携しながら、今後も理念の具現化に向けた取り組みが期待できるホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム ジョイナス**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分の人生の最後まで小さな発見や感動があり続け、社会と共に生きていく。そのつなぎ手となろうとする理念を共有するため、理念を見やすいところに掲げ、仕事の始まりに確認している。	理念を共有空間の目につきやすい場所に掲示し、朝のミーティングで唱和している。暮らしの中で、日々発見や感動をする機会や場を設け、共用空間の壁に、全員で和紙の淡い桜の花びらを布に貼り付けた天井近くまで見事な桜の木が咲きほこり、流れるような毛筆で書かれた入居者の作品とともに掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組合に入っており、敬老会への参加や、空き缶拾い、公民館清掃などにも参加している。また、近所のコンビニにも歩いて出かけ、店員さんと挨拶を交わしたり、週1回、近隣のかたと手芸などを通して交流をもっている。	地域の敬老会に入居者全員で参加し、男性入居者が花束贈呈に謝辞を述べている。管理者は退席する入居者がなかった事を驚きながら、入居者が社会性を発揮できたことを喜んでい	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域においてキャラバンメイトの活動などをおこない、認知症の理解や支援を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族のかた、地域の民生委員・自治会長にも参加をいただき、利用者の状況報告や職員の研修報告・行事の案内のほかホームの食事を体験して意見をいただいたりして、サービスの向上に活かしている。	家族や入居者も参加し、適切なメンバーで2ヶ月毎に開催されている。発語が少なかった入居者が普通の会話ができるようになった事例を報告したり、地域代表からは、外出先の情報が提供され、社協からバスを借りてはどうかなどの意見が提案されている。	運営推進会議開催の趣旨の理解や参加を促すために、家族に会議開催の案内や会議内容の周知をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などに参加していただき、事業所の状況やサービスの取組みを伝えるようにしている。書類関係や研修などに関しても協力体制をとり、連携を深めている。	毎月地域包括支援センターに居室情報を提供している。市担当者の参加もある地域同業者協議会に加入し、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を確認し、利用者様一人ひとりのその日の気分などを、きめ細かくチェックすることで、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。また管理者はすでに研修済であり、職員にも受講の機会を与え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設者研修会や実践者研修会で、身体拘束に関する研修を受けている。職員は「だめ」の言葉がこころを縛ることを理解し、傾聴に努めている。入居者の家に帰りたいとの思いに、他の入居者が「(ここに)皆でとまると」と声をかけるなど、それぞれを思いやりながら共同生活が営まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待認識のための基礎知識の資料を、職員全員に配布し、ミーティングの中で読み合わせ確認を行い、常に虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、パンフレットなどを窓口に用意し、相談できる窓口の紹介ができるようにしている。また職員にはミーティングなどでパンフレットを配り、勉強の機会を持つようにしている。	重要事項説明書に、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットの整備を明記している。具体的な活用については、相談窓口を、紹介する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書などで事業所のできる事、できない事、また事業所のケアに関する考え方や取組についても十分に説明している。利用者や家族のかたの話をよく傾聴し、納得していただいているから契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人や家族のかたが、意見や思いを伝えられる雰囲気づくりを心掛けている。出された意見や苦情については速やかにミーティングで、話し合い対応できるようにしている。	利用料金請求書送付時に、入居者の日ごとの生活ぶりを報告して、家族の意見の表出を促したり、家族の来訪時に意見を伺っている。「元気になるようになって良かった」と話される家族が多い。	家族の意見の表出を促すために、意見箱の設置をお願いします。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや随時の個別面談など、職員の意見や要望を聴くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、問いかけ、聴きだしたりするようにしている。	毎月のミーティングでは、職員同士で意見を出すように促し合い、率直な意見を交換している。会議では、リハビリパンツを布パンツにしてはどうかや、食事づくりや後片付けの手間や時間を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備をしている。開設から、社会保険労務士と契約して、職場環境条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	正社員も短時間社員も分け隔てなくチームの一員として、働いてもらっている。研修・ミーティングにも参加して、職員の質の向上に向けた育成ができるよう計画している。また、資格取得のための勉強会には、積極的な後押しをしている。	ハローワークや職員等の口コミで、職員を採用している。休息場で交代で昼休みを取ったり、子育て中の職員もあり、希望するシフトを全職員で協力している。職員の段階に応じて、地域同業者協議会等の研修参加を促している。木工製作業の職員の指導で、クリスマスツリーや桜の木などの季節感ある飾り付けをするなど、職員の能力を活かしながら、生き生きと働ける職場づくりをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる	代表者・管理者は協議会の研修参加で啓発活動に取り組んでいる。また、職員も研修会等参加で人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	全職員が「自分が受けた介護、受けたくない介護」について、レポートを書いている。書くことで、人権について考えたり、日々のケアを振り返るきっかけにもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は年間に行われる外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じて、なるべく多くの職員が受講できる計画をたてている。またそれらの研修報告は、レポートにまとめてもらい、全職員が閲覧できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者でつくっている協議会に参加し、勉強会・研修会などで情報交換、交流をおこなっている。また、近隣の事業所と合同での行事なども計画している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するように努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している。傾聴の姿勢で話しやすい雰囲気づくりをこころ掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご本人のサービス利用状況や、ご家族のご苦労など経緯についてゆっくりと聴き、ご家族の方が何を希望されているかまた、不安に対してできることはすぐに実行、対策を考えるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況などを確認し、改善に向けた支援の提案や、相談を繰り返すなかで信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげられるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。 洗濯物を一緒にたたんでいただいたり、お掃除を共にしていただいたり、それぞれに役割をもたれている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が気を使うことのないように気配りしながら、面会に来られた時などに会話を心掛け、相談できる立場、雰囲気づくりに留意している。また本人様を共に支えていくことを大切に、本人様とご家族の絆を第一に考え、程よい関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の知人や友人、また家族親類などいつでも来ていただけるような、明るいホームを目指している。また面会の方と居室内でお茶やおやつを共に食べられることもある。利用者の方が自分の自宅に招いた気持ちになっていただけるような雰囲気づくりを心掛けている。	桜見物の場所をどこにしようかと入居者と話している。「○○公園が良い」とか、「昔は川沿いに桜があったが、今はない」など、地域の入居者ならではの会話となり、馴染みの場所での花見を予定している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員が共有して、毎日のお茶や食事、レクレーションの時間は、職員も一緒に会話を持つようにしたりして、利用者同士の関係が円滑にいくように配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様ご家族にも相談など支援を心掛けている。また入院退居となった利用者様のお見舞いにもでかけ、声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話をじっくり聞きながら心身の状況を把握しようと努めている。コミュニケーションをとることが難しい方は、家族と話したり、本人様の少しの表情の変化に気づき、気持ちを理解するように努めている。	基本情報やアセスメントシートを整備し、入居者の心身の状況を把握し、思いや意向の把握に努めている。担当職員が入居者の生活ぶりを毎月家族に連絡し、家族から情報を収集している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などをじっくりと聴き、本人の全体像を理解するよう努めている。その際には本人の過去や大切にしていることに触れる、という自覚を持ち、本人のケアに活かすという目的をもって聞いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりの中から一人ひとりの一日の過ごし方、生活リズムを理解するとともにできないことより、できることに注目するようにし、その全体像の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日頃の関わりの中で思いや意見を聴き、プランの見直しを行っている。モニタリングは担当職員を中心に評価を行い、現状に沿った介護計画を作成し、本人と家族の同意を得るようにしている。	入居者や家族の意向に沿って介護計画を作成し、担当職員が、実施状況を毎月モニタリングしている。職員の気づきをミーティング等で話し合い、計画を見直している。発語が少なかった入居者が発語を引き出す関わりで、発語が多くなり、ウィットに富んだ会話ができるまでになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉などを記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにして情報の共有をしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて本人の意見や家族との相談、ほかの事業所の意見を聴きながら支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政・地域の民生委員の方との交流により、地域資源の把握に努め、本人に必要なサービスを利用できるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には事業所の協力医のほか、かかりつけ医や希望する医療機関があれば、家族と利用者を確認をおこない、適切な医療を受けられるよう支援している。また訪問診療に来てもらうケースもあり複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	訪問診療、訪問看護を支援したり、家族が専門医療機関に同行するこもあるが、近隣に医療機関が多く、適切な医療を受けやすい立地である。カーデックスに訪問診療や訪問看護の記録を整備し、全職員が情報を共有できるようにしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2度看護師による往診で利用者の健康管理を行い、状態の変化に応じた支援ができるようにしている。また看護師の訪問のない日も、体調変化など些細な事で気付いたことがあれば、すぐに報告し、迅速な対応をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関あてに情報提供書を作成し、利用者の心身の状態やホームでの生活状況などを報告している。退院時には医療機関より、看護サマリーを提供してもらい、医療経過を把握するようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をふまえ、意志、職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるように、意志を確認しながら取り組んでいる。	看取りに関する考え方の書面を整備している。ホームの準備が整い、入居者や家族の同意が得られる場合は看取りを支援する予定である。退居後入院先で逝去された方もあり、今後も家族や医療機関と十分に話し合いながら、共同生活ができるかどうかを見極める予定である。	看取りに関する考え方を実践するために、ホームでできることやできないことを具体的に明記した書面の整備を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署が行う救命講習に順に参加し、応急手当や対応についての訓練を受けている。また、ホーム内にも急変や事故発生時に備えマニュアルを置いて、いつでも対応できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回行うようにしている。地域の協力体制については、組合でお願いしたり、運営推進会議で協力をお願いしている。	避難訓練では、エレベーターを使って避難したり、消火器の使い方を学んでいる。今回の訓練はシーツを活用した降ろし方を、消防署から指導を受ける予定である。飲料水や米、紙おむつなどを備蓄している。	緊急連絡網を活用した職員の招集や、備蓄台帳の整備で備蓄物品の検討をお願いします。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何よりも利用者様の「尊厳」を大事にしている。一人ひとりを人生の先輩として敬い、言葉や接する態度も配慮している。また排泄時なども羞恥心や誇りを傷つけることのないように支援している。利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その個別性や守秘義務について十分理解し、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	入居者の話を遮らないでじっくりと傾聴する対応をしている。暴言を吐く入居者もあるが、そのままを受け入れ、本音を言える場や関係づくりを大切にしている。入居者同士の労り合いも多く、入居者の声かけで職員も元気になり、入居者が人生の先輩であると実感することが多いと職員は話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを表しやすいような環境づくりを心掛け、スタッフは常に傾聴の姿勢をとっている。また言葉だけでなく、しぐさや表情などにも気を配っている。声掛けについても自己決定へとつなげられるように配慮し支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調やその時の気分にも配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時には、基本的にはご自分でその日の服を選んでいただくようにしている。ときに、ご自分で口紅をひかれる方もあり、入浴後には化粧水を付けられる方もある。カットや髪染はは約月1回、理容師に来てもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今日は何が食べたいですか？をよく聴くようにしている。メニューの説明をして興味が湧くように工夫し、時間のかかる方にも安心してゆっくり最後まで食事が出来るよう支援している。体調を見ながら、片付けの手伝いをお願いし共に行っている。	入居時、ホームで用意したお茶碗と湯呑みから好みの食器を入居者に選んでもらい、食事を楽しめるように支援している。完食する入居者も多いが、入居者から「まだ残っているよ」との声かけがあったり、職員の声かけや見守り、ご飯の上におかずを載せるなどの支援で、食が進む入居者もある	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と水分摂取量・食事摂取量を記録し、状態を把握している。嚥下状態には特に気をつけ、状態に応じて軟らか食、刻み食などに変えるなど工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声掛け見守りをし、できない方に関しては毎食後のケアを支援し、口腔内の衛生や嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、トイレへと声掛け誘導介助を行っている。介助方法については個別の支援方法を職員全員が把握している。排泄に失敗を極力減らし、トイレでの排泄が出来るように支援している。	入居時は、寝たきりでおむつ着用だった入居者が、排泄パターンを把握したきめ細かな支援で、リハビリパンツを着用できるまでになっている。夜間のみポータブルトイレやセンサーを活用する入居者もあるが、日中や夜間帯で布パンツ、リハビリパンツ、おむつを使い分け、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人個人の水分チェック表を作成し、水分補給に取り組み、またホームで出来る適度な運動などで便秘の予防に努めている。医師、看護師との連携で排便の調整をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調やその日の気分などにも気を付けながら、基本的に毎日入浴していただいている。一度目の声掛けで拒否があっても、時間をおいて違う声かけをしてみるなど工夫をし、お風呂を楽しんでいただいている。	毎日入浴できるように支援している。清掃が行き届いた浴室に、個浴槽が設置され、1人でゆったりと入浴できるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは、いつもより詳細な記録をとるようにして薬を管理し、誤薬や飲み残しのないように確認に気を付けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。外出時や行事など、また、希望があればお酒を出すこともある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気やその日の体調に応じて、日常的に散歩に出かけている。また、時には散歩の帰りに、近くのコンビニによって、自分の好きなものを買って頂いている。少し遠くに出かけるときには、下見をしてトイレなどの確認をおこない、不安のない外出を支援している。	調査日の午前中、車イス入居者も他の入居者に押ししてもらいながら、ホーム周辺を散歩していた。午前中出かけなかった入居者も、午後から職員と散歩するなど、散歩が日課となっている。また、歴史資料館や雛まつりに出かけ、寿司屋さんで外食を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分でお持ちの利用者もおられる。家族よりお金を預かり、事務所が管理している人でも、外出時の買い物訓練などではお金を持たせていただき、レジに並んでいただくこともある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときは、電話をかけていただいている。ご家族の電話も取り次ぎ、本人が安心されるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は、天井を高くとり十分な採光を取り入れ、ゆっくりとした空間になっている。また、広い壁を利用し、利用者。職員共同で、季節感のある絵や飾りつけをしている。窓際やカウンター・テーブル・トイレなどに花などの植物をおき、食事時にはTVではなく、やさしい音楽を流している。	1階の玄関には、一休みできるように座り心地の良い椅子が設置され、飾られた季節の花や絵画等がこころ豊かにしてくれる。エレベーターで2階に上がるとホーム入口で、天井が高く広い共有空間には中央にテーブルやイス、窓際にテレビやソファ、テーブルが置かれている。対面式厨房から、美味しそうな匂いが漂い、テーブルで談笑する入居者も多い。空調も管理されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には、ゆったりとしたソファを置き、絵画や花を飾り、居心地の良い空間づくりに配慮し、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士がくつろげるスペースがある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には広いクローゼットを備え、馴染みのものができるだけ持ってこれるようにしている。居室内にもタンスや写真など、思い出のある品物が持ち込まれ居心地のよい雰囲気づくりを心掛けている。	ベットとクローゼットが設置された居室入口は、氏名が掲示されている。ソファやテーブル、椅子が持ち込まれたり、毎朝位牌にごはんとお茶を上げる入居者もいる。カーテンや壁の色が個室毎に変えてあり、個別性のある居室づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が送れるよう、必要な場所には手すりを設置したり、安全に暮らせるよう配慮している。利用者一人ひとりの「わかるちから」を見極め、物の配置などに配慮している。		